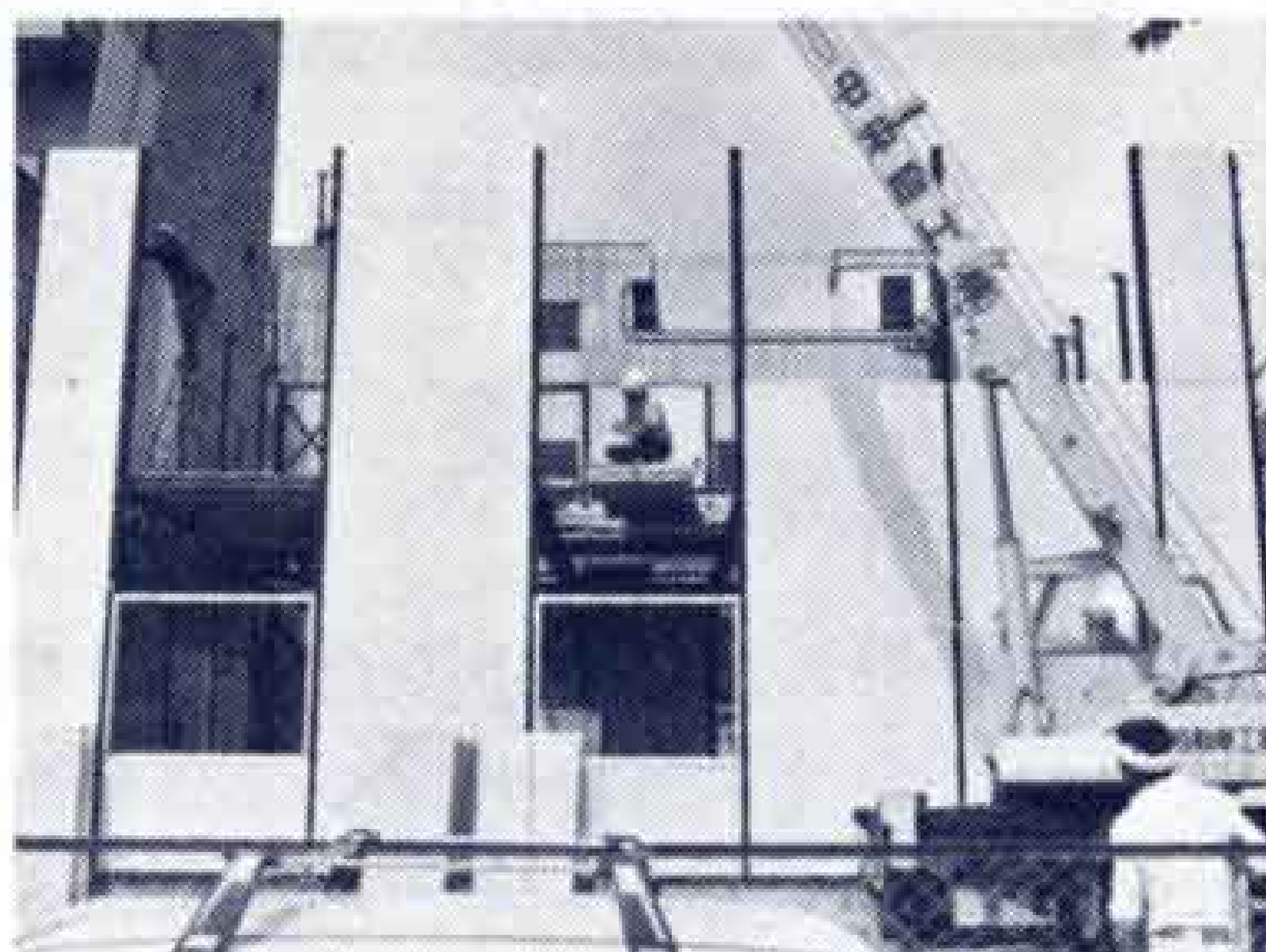


社団法人高齢者事業団「富士市シルバー人材センター」が、10月に県下ではじめて発足します。

健康で働く意欲のある高齢者に、体力と能力にあった仕事をあつ施するための機関です。

働くことを通して「生きがい」と「健康」そして「収入」を目標とし、高齢者にとって、もうひとつの人生を充実させようとするものです。



職安前に建設中の事務所



各地区で行われた説明会

高齢者事業団 シルバー人材センター 県下に先がけて発足

この高齢者事業団のねらいは、民間企業や公共団体、また一般家庭からも仕事を請け、会員の希望と経験や能力に応じて仕事を配分しようとするもの。会員になるには、市内に住むほぼ60歳以上の人なら入会申込書を出せばよい。

これまで市内15ヵ所で説明会を行ってきたが、高齢者から好評を得ています。特に、高齢のため就職がむずかしい人や就職は望んではいないが、経験や技術を社会のために生かしたいと思っていた人たちからも期待されています。

いよいよ10月13日の発足総会を前に、事務所づくりが急ピッチですんでいます。

いいことはじめたねエ



高橋武次郎さん(64歳)

浮島1

市はいいことはじめたねエ。
私は医療事務関係を長くやっていたから、その経験を生かして社会に役立ちたいと願っていたんだよ。

病院の掃除だって気にならないね。
これからの老人はもっと、希望をもって楽しみながら生きたいもんだ。

社会とのつながり深めたいワ



小林八重子さん(60歳)

中島新道町

趣味の会の老人仲間と話しあっていたんです。60歳にもなると、社会とのつながりがなくなっていくみたい。自分のできることを生かして社会とのつながりを深めたいってね。

ほんとに、ちょうどいいものが出来てくれました。

グループ訪問 29

子育てが話題の中心

主婦のグループ・カンガルー会

「子供がいるから何んにもできない。で終りたくないんです」発起人の1人亀田美由紀さん(26歳・水戸島)は、もうすぐ1歳になる子の頭をなでながら話しました。

昔みたいに自分1人で子供を育てることは限界がある。みんなで育てるようにしたい。そして自分も成長しながら仲間づくりをしていきたい。

主婦のグループ「カンガルー会」はそんな願いからはじめられました。

「本当は、共同保育をめざしたいのですが、当面は、子育てや、安全な食べ物など身近な問題を取りあげ、月1回集まって、今日で4回目です」もう1人の発起人の青木美保子さん(30歳・広見町)が言葉をつなぎます。



子づれの主婦は
集まるのも大変

「9月例会は24日に広見公民館で行います。もっと多くの人に呼びかけて仲間になってほしいわ」

ちっちゃな子供たち14~15人が、さっき出来たばかりの手づくりおやつを食べながら、キャッキヤと明るく笑っていました。 連絡先☎21-5877 (広見町青木宅)